

科目名称:	インターンシッププラス I	
担当者名:	若月 博延	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	実習	1
授業の目的・テーマ		
1 度目のインターンシップを経て、自分で出来ていたことをさらに伸ばし、足りないことは後期の授業等で身に付ける。その実践の場として、インターンシッププラスがある。2 度目のインターンシップとして、就職を意識しながら、さらに現実の職場で社会人基礎力がどの程度身に付いているのかを確認する。		
授業の達成目標・到達目標		
1 度目のインターンシップ終了後、ルーブリックで社会人基礎力の自己評価を行なった。そこで足りなかった力について、事前学習でのワークで気付きを行う。現実の職場で必要となる社会人基礎力を獲得することが目標である。2 度目のインターンシップでは、上記の力について意識を持ちながら、インターンシップに臨む。1 週間（5 日間）のインターンシップを行うことにより「インターンシッププラス I」の評価を行う。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)			20	80	100
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	野々市市役所 新くりにつく 辰口観光(株) まつさき 田中昭文堂印刷(株) ツアーシステム 金沢東急ホテル スポーツクラブ・ヴィテン ヴィテン 税理士法人木村経営ブレイン	ディスティーノ金沢 トラディションデザイン ラヴィール金沢 ニチイ学館 北陸サンライズ ホテル・アローレ 宗重商店 烏骨鶏

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
物事に進んで取り組む力	言われた業務が終わり次第、自ら次の業務を探することができる	言われた業務が終わったから、次の指示を受けようと自ら質問できる	言われた業務をこなすことができたが、次の指示があるまでは動かない	言われた業務をこなしても、次の仕事を避けた
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	言われた業務をこなすだけでなく、やり方を改善できるか考え、提案できる	言われた業務をこなすだけでなく、やり方を改善できるか考えられる	言われた業務はこなすことができる	言われた業務もこなすことができない
相手の意見を丁寧に聴く力	メモを取りながら指示を受けることができる	指示などを受けたら話を聞いて、あとでメモを取っている	指示などを受けたら話を聞いて、思い出したらメモを取っている	メモを取ることができない
社会のルールや人との約束を守る力	研修先での決まりごとを守るだけでなく、その意味を理解できる	研修先での決まり事を守ることができる	研修先での決まり事を多少は守れた	研修先での決まり事を守れない

授業の内容・計画、及び事前事後学修の内容・学習時間（分）

<p>インターンシッププラスⅠ、プラスⅡは2度目のインターンシップとして行う。実習期間は1日8時間×5日=40時間となる。インターンシップ参加には、次のすべての行事への参加が必須となる。</p> <p>1) 事前学修1（90分） ・インターンシップ実習までの流れの説明</p> <p>2) 第1回説明会（90分）※事前学修 ・受入先企業等リストの提示と希望調査</p> <p>3) 第2回説明会（90分）※事前学修 ・受入先候補企業等の発表と最終調整</p> <p>4) 事前学修2（90分） ・事前面談への指導 ・個人ワーク：社会人基礎力についての自己評価 ・グループワーク：インターンシップの目標設定</p> <p>5) 事前学修3（90分） ・インターンシップ実施の指導 ・インターンシップ出発式</p> <p>7) 事後学修1（90分） ・インターンシップ研修の報告会（プレゼンテーション）</p> <p>8) 事後学修2（90分） ・ルーブリックを用いて担当教員と個人面談を実施</p>
--

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、インターンシップ中に毎日日誌を記入すること。また、各回の説明会についてまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
①学校報告会での発表 20% ②学生研修最終レポート 20% ③ルーブリック 20%
④インターンシップ先企業からの評価レポート 40%

課題に対するフィードバック

インターンシップ先からの評価を提示する。

教科書・参考書

インターンシップに関するプリント・資料を配付する。